

教えて!

vol.61

市立病院

テーマ

遺伝性乳がん卵巣がん 症候群 (HBOC)

今月の
ドクター

乳腺外科部長
橋本敏夫医師



乳がんや卵巣がんの多くは、遺伝する病気ではありません。しかし、遺伝的な要因がはっきりしていて親から子に遺伝することのある「遺伝性のがん」があることも事実です。そのような遺伝性のがんは、乳がんや卵巣がん全体のうち約 10% を占めると言われています。乳がんや卵巣がんの発症と関連している 2 種類の遺伝子が同定され、BRCA 1 遺伝子、BRCA 2 遺伝子と名付けられました。この 2 種類の遺伝子は男女関係なく誰でも持っている遺伝子ですが、生まれつきこの遺伝子のどちらかに乳がんや卵巣がんの発症に関する変化 (病的変異) があると、乳がんや卵巣がんなどになりやすいことが分かっています。

日本人女性が生涯のうちに乳がんを発症するリスクは 9%、卵巣がんは 1% と言われています。例えば BRCA 1 遺伝子または BRCA 2 遺伝子に病的変異がある女性の生涯発症リスク推測値について、乳が

んは 41 ~ 90%、卵巣がんは 8 ~ 62% となっています。また、乳がんや卵巣がんになりやすいだけではなく、「若くしてがんになる」「乳がんを多発する (対側乳がん・同側乳がん)」などが見られることがあります。HBOC の男性では、一般の男性よりも乳がんや前立腺がんになりやすいことが知られています。以下の項目に当てはまる人は乳腺外科または婦人科専門医にご相談ください。

- 若年性乳がん (40 歳もしくは 50 歳以下で診断)
- 60 歳以下で診断されたトリプルネガティブ乳がん
- 1 人で 2 個以上の原発性乳がん
- 卵巣がん 男性乳がん
- 乳がんを発症したことがあり、かつ、次に当てはまる血縁者がいる
 - ・ 50 歳以下で乳がんを発症 ・ 卵巣がんを発症
 - ・ 乳がんまたは膀胱がんを発症 (2 人以上)

■問合せ / 市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450